

## 第2章 農業の概況

### 1. 食用作物生産状況

「ト」国経済にとって農業分野はもっとも大きな影響力をもっており、労働人口の60.3%、GDPの42%を占めている。また、外貨獲得の30%が綿花、カカオ、コーヒー等の商品作物の輸出によるものであり、約50%を占める燐（りん）鉱石に次ぐ、重要な輸出品となっている。しかし、他の多くの西アフリカ諸国と同様、国家農業政策の重点が外貨獲得のための換金作物におかれており、食用作物生産への投資は少ない。その上、年率3.3%で増え続ける人口に食糧生産が追い付かず、一人当たりの実質的な食糧供給量は減少している。

「ト」国は、北部のサバナ州、中央州及び高原州西部になだらかな山地又は丘陵地帯があるほかは、国土の大部分は比較的なだらかな平地であるが、雨量、土壌、岩質、及び湿地等の諸条件から、農耕地の割合は国土面積の40%に満たない。

農業人口の大部分は、主として家族労働力であり、耕作面積が0.5～4ha程度の天水依存の小規模農業を営んでいる。耕起作業の89%が人力によるものであり、「ト」国の農業の低生産性がうかがえる（表2-1参照）。

表2-1 耕起作業の種類別耕作面積

州名	人 力		畜 力		機 械		畜力・機械		合 計	
	面積	%	面積	%	面積	%	面積	%	面積	%
沿海州	165,907	97.9%	288	0.2%	2,721	1.6%	553	0.3%	169,469	100%
高原州	248,139	98.8%	861	0.3%	2,135	0.9%	0	0.0%	251,135	100%
中央州	93,088	98.1%	867	0.9%	807	0.9%	176	0.2%	94,938	100%
カラ州	139,859	98.0%	2,831	2.0%	32	0.0%	58	0.0%	142,780	100%
サバナ州	99,866	54.3%	81,962	44.6%	1,655	0.9%	320	0.2%	183,803	100%
合 計	746,859	88.7%	86,809	10.3%	7,350	0.9%	1,107	0.1%	842,125	100%

（出典：農業・牧畜・漁業省統計・資料局統計資料 1996）

これら小農はトウモロコシ、ヤムイモ等の自給用又は販売用の食用作物を栽培するとともに、コーヒー、カカオ及び綿花といった輸出用換金作物を生産し、羊及び鶏等の家畜を飼育している。換金作物栽培を中心とした雇用労働力によるプランテーションも営まれているが、その数は少ない。

「ト」国の主要食用作物はトウモロコシ、ヤムイモ、キャッサバ、ミレット、ソルガム及びコメであるが、地域により主たる生産作物は異なる。また、気候により南部の小雨季、大雨季の2回の雨季がある地域と中北部の単一雨季地域に大別される。トウモロコシは中南部地域で、ヤムイモは中部地域、キャッサバは南東部地域、ミレット、ソルガムは北部地域、コメは中央州及び沿海州地域（沿海州のミッション・トーベとアゴメグロズでは灌漑稲作が行われているが、灌漑地域は全耕作面積の0.3%に留まっている）で主に生産されている。

次頁表 2-2 に「ト」国の主要食用作物の生産状況を示す。

表2-2 主要食用作物の生産状況

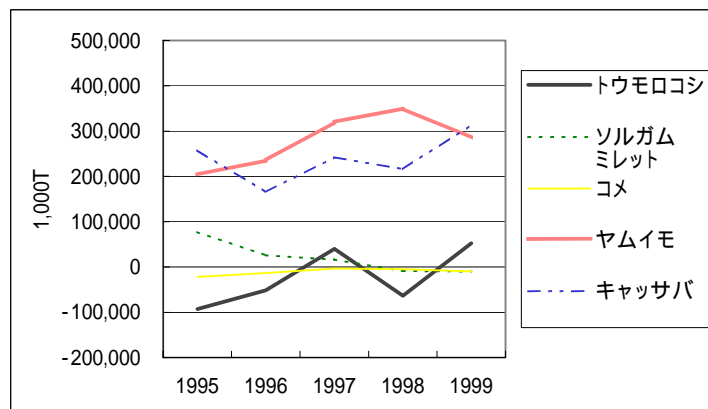
作物		1985	1990	1995	1999
トウモロコシ	作付面積(ha)	200,400	295,700	339,565	412,018
	単収(kg/ha)	919	944	850	1,224
	生産高(t)	181,576	285,448	290,432	493,570
ソルガム	作付面積(ha)	146,300	183,900	199,181	176,663
	単収(kg/ha)	716	726	895	850
	生産高(t)	94,870	114,615	172,325	141,658
ミレット	作付面積(ha)	117,700	142,600	110,354	84,589
	単収(kg/ha)	706	441	658	625
	生産高(t)	74,013	58	74,206	39,337
米	作付面積(ha)	21,700	19,200	41,916	38,139
	単収(kg/ha)	837	1,436	1,810	2,083
	生産高(t)	15,185	25,149	51,236	81,061
ヤムイモ	作付面積(ha)	33,500	43,300	61,805	60,941
	単収(kg/ha)	10,989	9,438	8,647	11,124
	生産高(t)	364,437	391,853	530,502	665,632
キャッサバ	作付面積(ha)	61,900	77,100	101,780	114,534
	単収(kg/ha)	10,306	8,915	8,384	10,381
	生産高(t)	474,365	592,867	602,212	693,998

注：表中の単収の数値は、計算上一致しないが、そのままとした。

(出典：農業・牧畜・漁業省統計・資料局統計資料 2000)

「ト」国ではトウモロコシ、ヤムイモ、キャッサバ、の生産が活発であり、これらの作付面積、生産高はコメとともに 1985 年から 1999 年の 15 年間にほぼ倍増している。これに対し、ソルガムの作付面積、単収、生産高は緩やかな上昇に留まっており、ミレットは作付面積、単収、生産高が減少している。

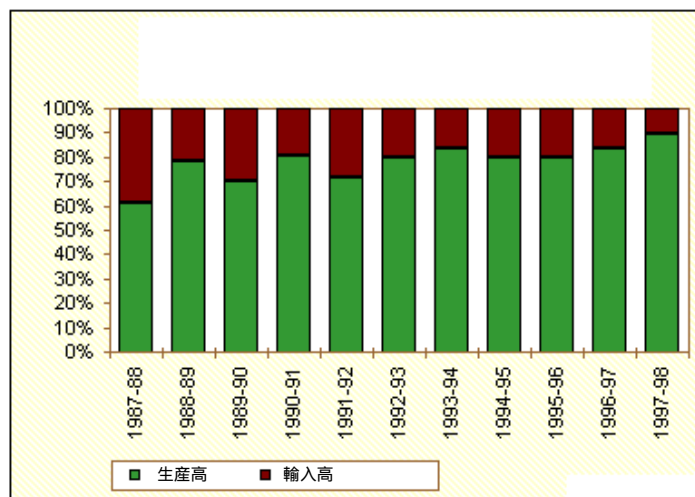
「ト」国では小規模農家による天水依存の農業が一般的であり、灌漑設備等の農業インフラが未整備であるため、気候変動により農産物の生産量は年毎に変動している。下図 2-1 に過去 5 年間の主要食用作物の需給状況を示す。



(出典：農業・牧畜・漁業省統計・資料局統計資料 2000)

図2-1 主要食用作物の需給状況 (1995-1999)

不足分を補うため、「ト」国は食糧輸入（食糧援助を含む）を行っている。下図 2-2 が示しているように、1997（平成 9）年には食糧供給量の 20%弱の食糧輸入を行っており、依然として全ての需要を満たす状態には至っていない。



(出典：FAO SMAR 2000)

図2-2 食糧輸入状況

## 2. 農業資機材の生産、輸出入統計

「ト」国では肥料、農薬、農業機械の生産は行われておらず、すべて輸入に依存している。肥料、農薬については、「ト」国における市場自由化で民間流通の割合は大きいですが、購買力と収入の見込める綿花をはじめとする輸出作物の栽培をターゲットとし、食用作物栽培地域の零細農家への流通は発達していない。表 2-3 及び次頁表 2-4 に肥料と農薬の調達状況を示す。

表2-3 肥料調達状況

		単位：t				
		1995	1996	1997	1998	1999
輸入量	窒素系肥料	6,975	10,386	6,010	6,600	8,500
	燐酸系肥料	4,635	5,650	5,400	5,300	4,200
	カリウム系肥料	2,835	5,805	5,400	5,300	4,200
	肥料全体	14,445	21,841	16,810	17,200	16,900
使用量	窒素系肥料	5,870	8,085	6,010	6,600	8,500
	燐酸系肥料	7,788	4,693	5,400	5,300	4,200
	カリウム系肥料	2,775	4,834	5,400	5,300	4,200
	肥料全体	16,433	17,612	16,810	17,200	16,900

(出典：FAOSTAT)

表2-4 農薬調達状況

単位：千ドル

		1995	1996	1997	1998	1999
輸入額	消毒剤	437	376	504	1,443	
	殺菌剤	4	240	37	9	
	除草剤	51	16	68	665	
	殺虫剤	5,139	5,150	6,609	5,863	
	農薬全般	5,631	5,782	7,219	7,980	8,000

(出典：FAOSTAT)

農業機械に関しては「ト」国の機械化は非常に遅れており、表2-5に示されるとおり、他の西アフリカ諸国に比べても普及率が低い。圃場の耕起作業にトラクターを利用している農家は全体の1%にすぎず、大部分の農民は鋤（くわ）もしくは山刀（焼畑のための雑草・灌木の伐採に使用）等の伝統的な農具で圃場準備を行っており、全国的には農業機械化はほとんど進んでいない。

表2-5 西アフリカにおけるトラクター普及台数比較表(FAO推定値)  
(単位：稼働台数)

	トラクター	1985	1990	1995	1997
1	ナイジェリア	18,000	23,000	28,500	30,000
2	象牙海岸	3,300	3,550	3,800	3,800
3	ガーナ	4,120	4,120	3,700	3,570
4	ブルキナ・ファソ	120	840	1,933	1,993
5	ニジェール	150	176	180	180
6	ベナン	116	127	140	142
7	トーゴ	92	100	85	80

(出典：FAO Production Yearbook 1998)

### 3. 国際収支バランスと2KRとの関係

「ト」国の1人あたりのGNPは330米ドル(1998年)、対外債務14.5億米ドル(1998年)で、後発開発途上国(LLDC)に分類される。GDPの42%を農業が占め、同国の経済の基盤となっている。

次頁表2-6に「ト」国における国際収支バランス、表2-7に外貨準備高の推移を示す。

表2-6 国際収支バランス

(単位:百万米ドル)

	1995	1996	1997	1998	1999
輸出	377.40	440.60	422.50	420.30	391.50
輸入	-506.50	-567.80	-530.60	-553.50	-489.40
貿易収支	-129.10	-127.20	-108.10	-133.20	-97.90
サービス貸方	87.30	116.20	88.50	76.00	68.40
サービス借方	-164.30	-201.40	-167.80	-149.20	-130.60
所得貸方	8.80	45.60	35.00	44.40	40.20
所得借方	-42.40	-72.00	-63.90	-67.70	-78.60
経常移転貸方	129.70	106.80	120.20	101.80	73.60
経常移転借方	-12.10	-21.90	-20.80	-12.20	-2.20
経常収支	-122.00	-153.90	-116.90	-140.10	-127.10
財政収支	-52.80	151.30	126.90	114.10	155.50
資本収支	-	5.60	5.80	6.10	6.90
総合収支	-174.80	3.00	15.80	-19.90	35.30
誤差脱漏	-19.30	-27.90	-2.70	2.70	-3.70
全体収支	-194.00	-24.90	13.10	-17.20	31.60

(出典: IMF International Financial Statistics November 2001)

表2-7 外貨準備高推移

(単位:百万米ドル)

	1996年	1997年	1998年	1999年	2000年
外貨準備高	88.5	118.6	117.7	122.0	152.3
1. 外貨	87.8	118.3	117.3	121.4	151.9
2. IMF リザーブポジション	0.4	0.3	0.4	0.3	0.4
3. SDR	0.4	-	0.1	0.2	-

(出典: IMF International Financial Statistics November 2001)

「ト」国の経済は主として燐鉱石、綿花、コーヒー、カカオ等の輸出に依存しているが、1980年代これら一次産品の価格が下落したこと、90年後半からの政治的混乱も加わり、同国経済は悪化していった。その後政治的混乱が93年に沈静化したこと及び94年の平価切下げにより一時回復基調に向かった。しかし、98年には8ヶ月にわたるエネルギー危機（電力不足）及び大統領選に絡む与野党間の政治的緊張の高まりで経済は再び停滞した。

そのような状況の中、94～97年に、IMF、世界銀行と協議して、拡大構造調整（ESAF）を行った。民営化や、軍縮、ロメ港を中核とする自由貿易地域構想を推進し、海外投資の誘致を得ようと努力している。

-0.7%（1990 - 1998年）であったGNP成長率は1999年には3%を達成し、外貨準備高も2000年には経済の安定化に最低限必要とされる、輸入の2～3ヶ月分をカバーしている。しかし貿易収支は常に赤字で推移しており、上記輸出品目は国際市況に影響されやすく不安定である。対外債務は依然として高く、14.5億米ドル（1998年）に上る。逼迫した財政事情の中で食糧輸入を継続的に行なわなければならないことや、現在年率3.3%という高い人口増加率を記録していること、食糧生産は基盤整備が未だ進まず低調であることを考えると、将来の食糧不足がさらに懸念されることである。このように、食糧不足、慢性的貿易赤字、対外債務の返済に苦しむ「ト」国には、外貨支援的側面を有した本プログラムは有効であると思われる。